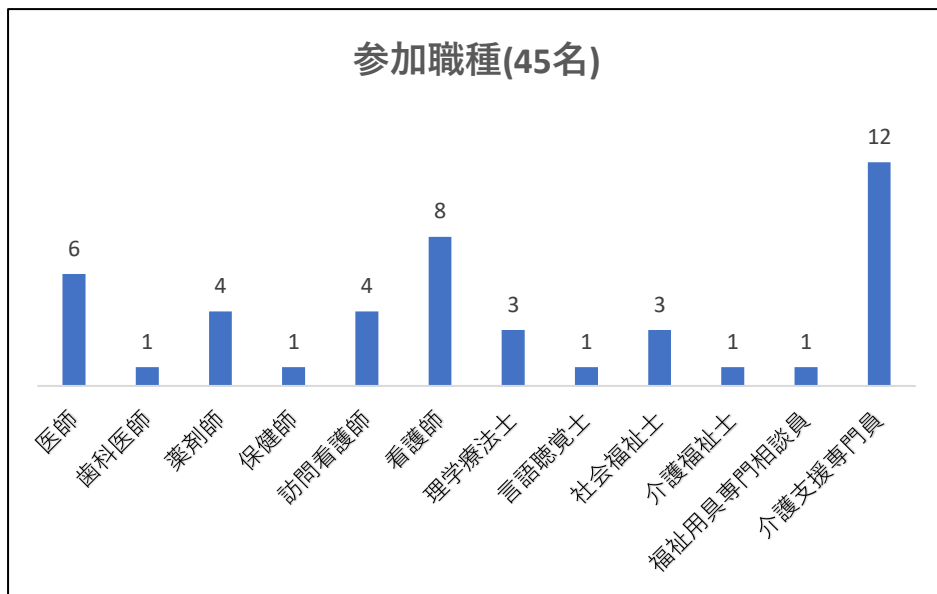
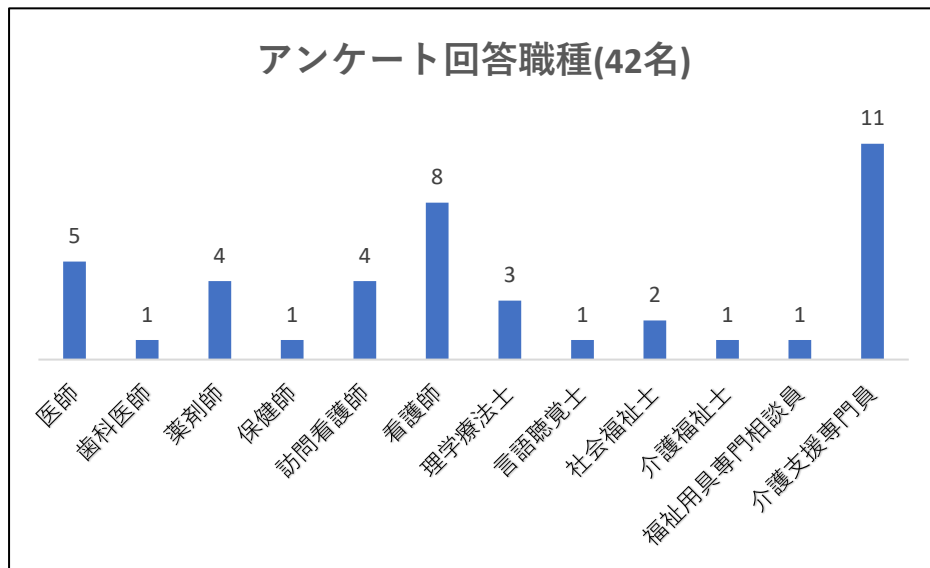


令和5年度第2回多職種連携・人材育成研修会 研修後アンケート集計

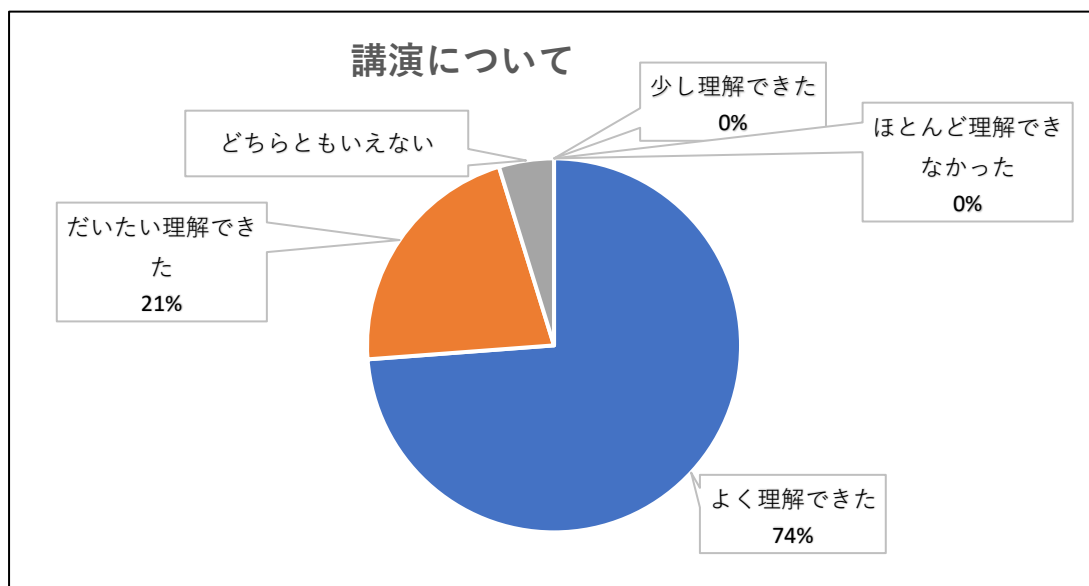
★ 参加者の職種



1 アンケート回答者の職種



2 講演について



①「よく理解できた」を選んだ理由

- ・よく伝わりました。皆様のご苦労がわかりました。
- ・事例を元に話をしてくださったので、わかりやすかった。
- ・判断できるうちに話しておかないと難しい。なるべく早いうちから話し合っていきたい。
- ・事例を通して、その職種の立場の思いなど知ることができた。
- ・それぞれの事例を通して聴くことで分かり易かった。
- ・身近に関する講演で、医療のバックアップが家族に対してあることをよく理解できた。
- ・ACPについてよく理解できました。
- ・思いがそれぞれに伝わるものでした。
- ・自分の経験と重なる部分が多かった。また、ACP というものを改めて考えることができた。
- ・ACP は医療・介護従事者全員が関わるものということがよくわかりました。
- ・事例もあってわかりやすかった。
- ・症例があったことで、より身近なこととして考えられた。
- ・ACP について分かり易く、再確認できた。
- ・医師からは基本とポイントをしばってお話ししていただいた。現場の事例を出していただき、深まった。
- ・色々な立場からのお話で、多職種の方々の取り組みや考え方が良く分かりました。
- ・一歩踏み込んで話を聴くことや具体的な事例もあり、共感もでき、また改めて学習となったこと。
- ・皆様、対象者に真剣に向き合う中での取り組みの難しさも感じたが、人を支える中では大切なことだと実感できた。
- ・ACP について考える機会を得ることができました。
- ・日々、真剣に考え、取り組まれていることが、とても伝わった。
- ・病院での苦悩がよく分かった。

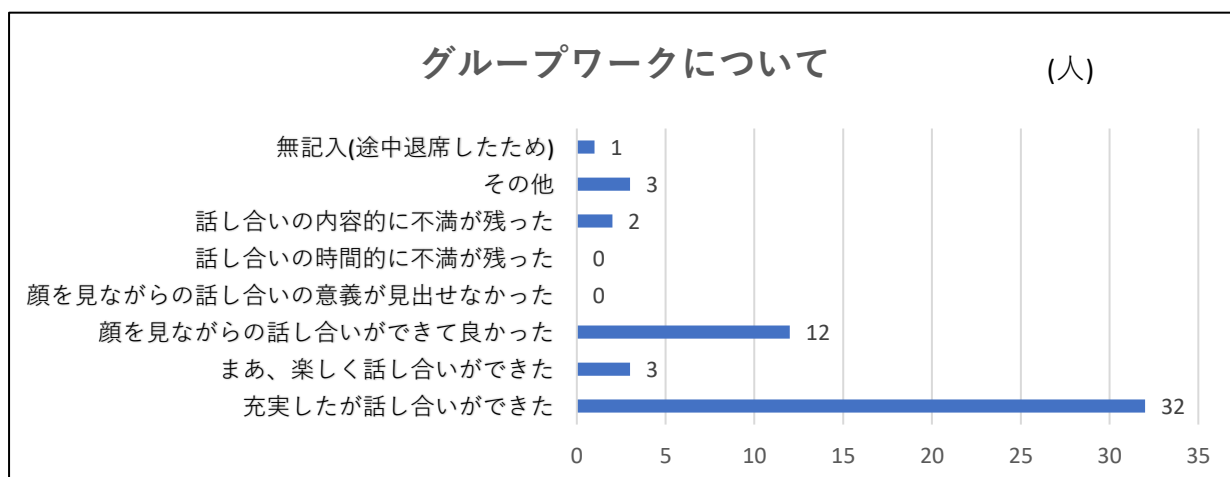
②「だいたい理解できた」を選んだ理由

- ・考えていかないといけないことだったので、いい学びになった。他病院や訪看の話が聞けて良かった。
- ・意思決定のタイミング、方法について考える良いきっかけとなりました。
- ・遅刻してしまいましたが、丁寧で分かり易い講演で助かりました。
- ・事例もあげながら、わかりやすく説明された。

③「どちらともいえない」を選んだ理由

- ・今日まで ACP を全然理解していませんでした。AD とはちがうけど、どうしたらいいのかフレームワークがわかりませんでした。この会で話を聞いて分かったり、疑問や自分の意見ができて、これから勉強しようという気持ちになりました。
- ・それぞれの職種の体験などを通して、共感や学びができました。

3 グループワークについて



①「充実した話し合いができた」を選んだ理由

- ・それぞれの立場での意見は説得力がある。
- ・色々な職業の人と話し合えて良かった。
- ・対面して意見を出し合う従来の形のGWで盛り上がった。
- ・他の人の意見が聞いて参考になった。知らないことを知れた。
- ・多職種の方と話のできたので、とても有意義でした。
- ・自分にはない考え方が聞けた。
- ・色々な職種が集まる中で話が色々聞けて良かった。
- ・各職種の考えが様々で参考になった。
- ・普段話せない先生と話がしっかりできました。
- ・職種を超えて、フランクに話できました。
- ・皆さんの意見が聞いて良かった。色々な職場からの話が聞けた。
- ・各職種での視点で共通の考え方、専門的な捉え方を学びました。
- ・病院内外の意見が聞けた。
- ・多職種の意見が聞けた。
- ・それぞれの価値観を共有できる機会になりました。
- ・色々な職種で話し合えた。
- ・意見を深めることができました。
- ・自分にはない考えが聞いて良かったです。

③「顔を見ながらの話し合いができて良かった。」を選んだ理由

- ・久しぶりで良かった。
- ・普段接することのない職種の方の意見が聞いて良かった。
- ・久しぶりに顔を見ながら他の職種の方と話ができてよかった。
- ・話をあまりしたことがない職種の方とも話のできた。それぞれに視点や経験が違ってとても勉強になった。

⑥「話し合いの内容的に不満が残った」を選んだ理由

- ・話し合うテーマを1つに絞っても良かったと思う。
- ・一人でしゃべりまくって、みんなだまってしまいました。みんなで考えなきゃ！じゃましてしまった。

⑦「その他」

- ・リモートでも顔を見ながらでも意義があると思いました。
- ・感染防御の観点から言えば、何らかの対策はした方が良かったかなと思います。コロナは5類になり公表されなくなりましたが依然として感染者は多いです。
- ・オブザーバーです。(医師)

4 「ACPについて考えたこと」「今後ACPについてどうかかわっていききたいか」「自分の仕事(職種)で取り入れたいこと」など

- ・積極的に取り組まないといけないと思った。感情が揺らぐというのは絶対あると思うので、そのケアをできるようにすることは大切だと思います。
- ・ACPといわれなくても病院ではそれぞれなりの話し合いをしながら、退院支援をしているが難しく考えずに自分はどうしたいか？という軽い気持ちで話ができ、それを記録していればそうなのかなと思った。
- ・ACPは自身、家族とも必ず対応しなければならない事柄だとわかった。業務の中でACPに関わるのは職種によっては難しいが、助力になればよいと思った。
- ・入院時に「延命」に関して、意思確認するのですが、担当ケアマネにその情報がフィードバックされ

ると、退院後の在宅支援に役立てることができるかなと思いました。共有書に記載が無理なら、何らかの形で。

- ・高齢者の方は人生の先輩であり、その方に対して私たちは失礼のないように時間をかけて話を聞いていく必要があると思います。ACPという言葉は難しく考えずに家庭での話題にしていくことも必要なのでは。一人暮らしの高齢者では意思決定ができない。家族の意志になってしまうような気がします。
- ・本人が意思決定の可能な時期で、①健康な時期と②初期の有病の段階の2度にかけて聞くのがいいと思った。
- ・意思決定支援について理解できたことは良かったと思える。ACPについてなかなか難しいことではありますが、行って行かなければいけないことです。プロセスなどを学び、実践していきたいと考えています。
- ・我々は仕事柄ACPについて考える機会がありますが、一般的にはまだ広まっていないのかもしれない。訪問時に「ACP(人生会議)って聞いたことはありますか？」と尋ねてもいいかもしれません。ACPはその人の価値観や人生観など大きくとらえたものと、いざという時にどうしたらいいかというACPを2つに分けて考えた方が分かり易いと今日の研修を終えて思いました。
- ・ACP、人生会議と言う名前ですが、支援者側は看取りへ寄ってしまいがちですが、どう生きるかを元気なころから家族で話し合っておくことで、万が一の時の話が家族間でもしやすいので、家族に伝えていきたい。
- ・気軽に何でも話せる関係づくりをしていきたいです。
- ・ACPの理解はあまりできていなかった。しかし、本日の研修にてそれぞれの職種の立場での考えや思いを知ることでACPの大切さを知ることができました。意思決定の支援で自分に何ができるかを考えた時、やはり関わりを積み重ねて、ゆっくりと時間をかけて話を聞くことが重要だと感じました。今までなかなか踏み込めないことではありましたが、今後少しずつ本人の意思を聞いていこうと思います。
- ・しっかり話をきき、本人の望む最期が迎えられるように支援していきたい。
- ・多くの職種の方が身近に寄り添う考えを持っていることを利用者様に伝えることができると思いました。
- ・ふだんのかかわりを大切にしながら、個人個人の思いを聞き取りしていきたいです。
- ・ふだんから、リラックスした時にお話をうかがいたいです。
- ・職種上、どうしても看取りに寄った「どう最期を迎えたいか」という捉え方になってしまうが、「どう生きたいか」という視点でもしっかり考えたいと思う。
- ・病院への入院のタイミングが、現時点ではACPを考える機会になっているので、「どう生きたいか」ということを小さなことでも聞き取りできればと思いました。
- ・看護師としてACPを考える前に、一個人として自分の生き方について考えていくことも大切だと思いました。
- ・臨床に出て2年の経験しかしておらず、ACPという単語を初めて聞きました。内容を聞いてみると、深く重い内容でした。ですが、提供する側として、良い意味で深く考え込まず、提供した方がよいのではと思いました。
- ・ACPについてはまだまだ勉強不足。今回のような講演は、医療・介護職のみならず、住民にとってもやさしいACPの考え方、方法だったので大変共感もてました。
- ・現在高齢の方と話をする機会が多くあるので、今後につなげていきたいと思いました。
- ・難しい話題なのでいつも寄り添っていくことが本当に大切だと思います。医療者も本津に心病むことだと思います。そのためにも本日のような研修を続けていくことが大切だと思いました。
- ・病院の中では関われない方々とお話しができて良かったです。担当者会議に出席できるようにしたいです。

- ・どんな生活を送ってきたか、これから先どんな生活を送りたいかを普段のおしゃべりの中から引き出す。家族も同じように何気ない会話で思いを引き出す。患者も家族も気持ちが揺れるということを目撃していただき、大変うれしかった。その都度その都度でみんなが寄り添っていくという皆様のやさしさを感じられ本当に良かったです。
- ・ひきつづき患者に寄り添い、日常から病状についてどう思っているかなど本音をさぐっていききたい。そして、それを医師や多職種にフィードバックする。
- ・様々な職種の方の話が聞けて良かった。ACPは色々な考え方があってよいのだと感じました。今後、ACPが医療従事者だけでなく一般にも広まっていくよう、まずは身近な人(家族など)から話していけばよいなと思いました。
- ・ACPの研修やパンフレットを配布することを検討したい。緩和カンファレンスで意思決定支援を行いたい。
- ・市民みんなが自分のこととして当たり前を考え、意向を人に伝えることがあたりまえの新見市になればいいなと思いました。ACPを大切に取り組むことで、対象者のことを大切にできると感じました。
- ・健康な時に日頃からACPについて考える機会が必要だと思いました。患者さんとの何気ない会話やACPについての紙を配って知ってもらう機会を作るなど、出来ることからしていきたいと思います。
- ・いつ考えるかという問いに対して、他のグループから面白い意見が聞けて、自分が普段考えていなかったアイデアであり、良かったと思います。
- ・「ACP」というアルファベットを使っている限り、中々、高齢者や一般の人には伝わりにくいよなー。
- ・どうしたらよいか悩むばかりで、他の人の助けを借りようとしていなかったと反省した。たくさんの方の経験をもとに今後も一緒に考えたいです。
- ・改めて本人の意思確認が大切であることを理解できた。普段から本人の本当の意思が聴けるよう、信頼関係の構築に努めていきたいと思います。
- ・みんなの邪魔をしないようにしたいです。とくにファシリテーターの邪魔をしないようにみんなが自分の意見を言えるようにしたい。
- ・自分の生き方を考える機会になります。悩みながらできることをやろうと考えています。
- ・薬剤師も在宅などで高齢者と関わる機会があり、情報を収集することができるのではないかと思います。部屋の様子、身振り手ぶり、話し方、どんな些細なことでも、多職種と共有できるようにしていこうと思います。
- ・みんながACPの一員と思っていただきたい。人生ノートを作りたい。
- ・ACPを決めていることが多いが、揺れている気持ちを知り、とにかく話を聴いてみるのが大切だと思った。遠藤先生は、「Drは蚊帳の外」とおっしゃっていましたが、とんでもない！！ Drの一言が本人や家族の気持ち、安心、今後の療養生活を決めるのです。Nsの言葉では説得力がありません。知り得た情報はどんどんお伝えします。よろしくお願いします。